

## 安全宣言で決意新た 交通安全宣言大会を開催

登米市交通安全宣言大会は9月18日、登米祝祭劇場で開かれ、交通安全関係者など約500人が集まり、交通事故防止に向けて、決意を新たにしました。

交通事故犠牲者に黙祷した後、交通安全活動功労者の表彰や県警音楽隊のアトラクションなどがありました。

登米総合産業高校の松田拓也さん(3年)は「学校では、毎月15日に街頭指導を実施し、交通安全の声掛けをしています。私は、通学でバイクを使用しています。常に交通ルール厳守を心掛け、これからも安全運転に努めていきます」と話していました。



佐沼署の笹原隆二署長は、後を絶たない飲酒運転や交通死亡事故を挙げ「皆さんと力を合わせて防止したい」と話しました。

## 水害防いだ長沼ダム 9月関東・東北豪雨が発生

9月9日から11日までに関東および東北地方で発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」。豪雨の影響で、迫川の水位は氾濫危険水位5mに迫る4m87を観測しましたが(佐沼観測所)、長沼ダムの稼働などにより人的被害は発生しませんでした。

「10年に一度の水害」に備えて建設された長沼ダムは、完成から1年4カ月で稼働。11日午前10時頃から長沼へ流入し、水位は1m以上上昇しました。

県内では、栗原市は50箇所を超える河川で越流や決壊があり、大崎市は渋井川の堤防が決壊、大和町は吉田川が氾濫するなど、甚大な被害が発生しています。



11日午後3時頃には、越流堤を越えた水が轟音を響かせながら長沼に流れました。

## 市内企業のワザ集結 産業フェスティバル開催

第11回登米市産業フェスティバルは10月4日、迫体育館と迫中江中央公園を会場に開かれ、家族連れなど多くの来場者でにぎわいました。産業フェスティバルは、市内の食品加工や木材加工、電子部品、自動車部品など、製造業を営む企業などが、多様なモノづくり産業を紹介し、市民との触れ合いの場の提供を目的に開催。合わせて南三陸町の福興市も催されました。

古川みなみちゃん、蒼大ちゃん(迫町萩洗)は「お父さん、お母さんと一緒に来ました。人魚姫とサルを書いたら、大きな画面で動いていてすごいと思いました」と話していました。



迫リコー株式会社出展の「紙アクアリウム」。自分たちの書いた絵が大画面で動き回り、子どもたちは大喜び。

## 日頃の鍛錬成果競う 登米市消防団演習を開催

消防団の技術と団員の士気を高めるため、平成27年度登米市消防団演習は9月13日、長沼フットピア公園で開かれ、市内9支団から約700人の団員が参加しました。演習は9支団の対抗で、小型ポンプ操法と小隊訓練の2種目を実施。夜間や早朝に訓練を重ねてきた団員たちは、指揮者の号令で一斉に動き出し、息を合わせた正確な動作で放水操作や隊列行進をし、日頃の鍛錬の成果を競いました。また、全国大会に出場する女性消防隊が、軽可搬ポンプ操法を披露しました。

審査の結果、小型ポンプ操法、小隊訓練共に東和支団が第1位となり、総合優勝しました。



一糸乱れぬ動きは、日頃の訓練のたまもの。消防団の訓練は、有事の際の規律確保や集団行動の基盤となります。

## 全国での優勝を誓う 女性消防操法大会壮行式

消防技術を競う「第22回全国女性消防操法大会」(10月15日・横浜市)に、県代表として登米市女性消防隊が出場することになり、10月4日に市消防防災センターで壮行式が開かれました。

同大会は地域での防災意識を高めようと、総務省消防庁と日本消防協会が隔年で開き、全都道府県代表の47隊が出場。軽可搬ポンプにホースをつなぎ合わせ、標的を落とすまでの速さや規律、士気などが審査されます。鈴木すず江隊長は「前回大会で優勝した大和町から引き継いだバトン、次の県代表につなげます」と大会に向けての抱負を述べました。



合併以前は、1988年に豊里町婦人消防隊が出場し優勝。隊員たちは、鉄壁のチームワークでそれ以来の優勝を目指します。

## スポーツと食欲の秋 第26回長沼レガッタ開催

第26回長沼レガッタは9月20日、アイエス総合ボートランドで開かれ、水上で熱戦を繰り広げました。

種目は5人制ナックルフォア(500m)と1人制カヌー(250m)で、合計78クルーが出場。会場付近では、心地よい秋晴れの下、選手や応援団がテントを並べバーベキューを楽しむなど、スポーツと食欲の秋を楽しみました。チームスワズ9(代表大友信子さん)の皆さんは「ママさんバレーのチームで参加しました。チームの団結力を高めるため、バレー以外の競技に挑戦しました。今回は決勝で負けましたが、来年は優勝できるよう頑張ります」と話していました。



漕いで楽しみ、見て楽しみ、食べて楽しむ。レガッタには、さまざまな楽しみ方があります。